

3

There was a big pond in a forest.

There lived a school of frogs; happy and free.

One day, there were three frogs having
a conversation on the bank of the pond:

"Hey, did you know? In the world of humans, there is
a person called a 'king' and he apparently makes all
the decisions."

"Oh wow, that's a good idea. If that 'king' can decide
everything for us, then we won't have to think for
ourselves."

"We should create a king amongst us."

"Sure, but who is it going to be? I definitely don't
want to take part in this."

"Hmm, what should we do?"



5

After thinking of what they should do, they decided to visit God.

"Dear God, could you please grant us a king?"

"Grant you a king? What do you mean?

I am confused."

"We want a king who can command us around so it isn't troublesome for us to think about what we need to do ourselves."

"Yes, so please God, could you do something about it?"

The God was disgusted to hear their story and thought:

"What a bunch of silly and foolish frogs. Well, I should punish them a little bit."



ここは、とある もりの なかに ある、
おおきな いけです。
ここでは たくさんの かえるたちが、
みな じゆうに、たのしく くらしていました。

あるひの こと。
さんびきの かえるが、いけの ほとりで
はなしを していました。

「なあ、知っているか？にんげんの せかいには
『おうさま』っていうのが いて、
そのひとが いろんなことを きめているらしいぜ」
「それは いいな。みんな その おうさまってやつに
きめてもらえば、じぶんで なにも かんがえなくて
いいんだぜ」
「おれたちの なかで、おうさまを つくろうぜ」
「いいけど、だれを おうさまに えらぶのさ。
おれは やりたくないぜ」
「う～ん、どうしよう・・・」



かんがえたすえに かえるたちは、
かみさまの もとに
おねがいをしに いくことにしました。

「かみさま、おれたちに おうさまを
さずけてください」

「おうさまを さずける・・・？
いったい どういうことだ」

「ぼくたち、めいれいを くれる おうさまが
ほしいんですよ。なにを するにも
じぶんで かんがえなくちゃ いけないなんて、
めんどうでしょ？」

「なんとか なりませんか、かみさま？」

かみさまは その かえるたちの はなしをきいて、
すっかり あきれてしまいました。

（まったく、なんて おろかな やつらだ。
どれ、すこし こらしめてやるか）

